



# えんじゅ

春日市立春日小学校  
校長室便り No.5  
令和4年6月17日  
文責：校長 福島

## 戻りつつある日常



毎朝出勤すると学校の回りを1周して校門に立ち子供たちを迎えます。朝の会から1校時にかけて全教室を回るのが私の1日の始まりです。

今週水曜日は、プールの様子を写真に撮ろうと思ってカメラを持っていました。プールに行くと4年生が楽しそうに学習していました。1年生の時以来のプール学習ですので、まずは浅いプールで水慣れです。初めて深いプールに入るときには不安げな子もいましたが、徐々に緊張も和らいでいったようです。水の中ってやはり子供にとっては特別な場所なのですね。

プールから戻っていると、家庭科室で5年生が調理実習をしていました。その隣の図工室では5年生が糸鋸を使った学習をしていました。どの学習も意欲と笑顔がみられます。

校長室にいと、リコーダーの音色や歌声も聞こえてくるようになりました。聴いていると心が潤います。改めて、多様な方法で子供の可能性を総合的に伸ばすことが小学校には求められていると感じています。

コロナ禍の数年、教育の方法は大きく制限されました。その中でできる方法を考え、「学びを止めない」ことを大切にしてきました。学校は、集団で学び合う場です。人と人とのかかわりあい基本です。今週もコロナ感染により学年閉鎖の措置をとる等、まだまだ慎重な取り組みが求められますが、状況を見極めながらかかわりを大切に多様な教育に戻していきます。成長過程にある子供の「今」は今しかありません。

学校では、登下校時や昼休み、体育の時間等は身体的距離を取ってマスクを外す指導をしています。マスクが当たり前になって外す子供は少ないのが現状です。お子様の気持ちを大切に、ご家庭でも声をかけていただければ幸いです。熱中症も心配ですが、表情を読み取る力も大切です。